



香曾我部義則先生の今月のカルテ ⑤4

慢性痛とペインクリニック

■プロフィール こうそがべ・よしのり 昭和54年に岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長に。平成16年から現職。日本麻酔学会専門医。日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生が、痛みの治療について説明してくれるコラム。今回は、頸(けい)部や腕、手指などに痛みと痺(しび)れが伴う「頸椎症性神経根症」の症状と治療法について紹介します。

症状の程度によって牽引療法、温熱療法、運動療法を行います。改善しない場合はブロック療法も有効

半年くらい前から頸(けい)部の付け根と後ろに痛みが生じ、次第に腕にも痺れと痛みが走るようになった患者さんが来られました。

調べてみると、右の頸部(けいぶ)痛、右上肢の持続的な痛み、肩への放散痛、手の痺れがありました。腕の筋力の低下は認められず、握力も問題ありませんでした。頸部を少し後ろに向け頭を動かすと、上肢への放散痛が認められました(ジャクソントレス)。

また、頭部を屈曲すると、同様に上肢に鋭い放散痛が走りました(スパーリングテスト陽性)。

頸椎(けいつい)が変性すると椎間孔という神経が出てくる通り道が狭くなります。狭くなったところで神経が圧迫され、このような症状が生じます。圧迫が強まるので、圧迫が強いと症状が強く出ます。この方も親指の痛みや中指にも同じような症状が見られました。

早速レントゲン写真を撮ると頸椎の変性が生じ、椎間腔(こゝろ)の狭小化や骨棘(こゝきょく)の増性が認められました。このような症状を起す病気が加齢によって起こる脊髄性頸椎症(けいついせいけつせいちゅう)でよく見られます。

頸椎(けいつい)が変性すると椎間孔という神経が出てくる通り道が狭くなります。狭くなったところで神経が圧迫され、このような症状が生じます。圧迫が強まるので、圧迫が強いと症状が強く出ます。この方も親指の痛みや中指にも同じような症状が見られました。

頸椎(けいつい)が変性すると椎間孔という神経が出てくる通り道が狭くなります。狭くなったところで神経が圧迫され、このような症状が生じます。圧迫が強まるので、圧迫が強いと症状が強く出ます。この方も親指の痛みや中指にも同じような症状が見られました。

頸椎(けいつい)が変性すると椎間孔という神経が出てくる通り道が狭くなります。狭くなったところで神経が圧迫され、このような症状が生じます。圧迫が強まるので、圧迫が強いと症状が強く出ます。この方も親指の痛みや中指にも同じような症状が見られました。

頸椎(けいつい)が変性すると椎間孔という神経が出てくる通り道が狭くなります。狭くなったところで神経が圧迫され、このような症状が生じます。圧迫が強まるので、圧迫が強いと症状が強く出ます。この方も親指の痛みや中指にも同じような症状が見られました。

は、①星状神経節ブロック ②頸部硬膜外ブロック ③腕神経叢(そと)ブロック ④神経根ブロックなどのブロック治療が有効とされています。中でも頸部硬膜外ブロックと腕神経叢ブロックが非常に有効です。結果、この患者さんは頸部硬膜外ブロックで痛みを取ることができました。

神経根を圧迫している神経根症と異なり、脊髄神経に障害が及んでいる場合は、歩行障害や尿が出にくいまたは逆に頻尿になる、便が漏れるといった膀胱直腸障害など痛み以外の重篤な症状が現れます。これは頸髄症という病気で手術療法をまず第一に考えなければなりません。この場合は脊髄専門医を速やかに受診することが大切です。

梶木病院(西花尻) ☎(090)3335559